

# 英首相、欧州単一市場撤退を表明

## ポイント① 単一市場残留論を排除

英国のメイ首相は1月17日の演説で、欧州連合（EU）からの離脱に関し、欧州単一市場には残留する道を探るべきという部分離脱論を排し、移民制限や国境管理などでの英国の権限回復のためには単一市場に残ることはできないと述べました。代わりに単一市場へのアクセスを確保するため、EUとの包括的自由貿易協定の交渉を主張しました。

為替市場ではメイ首相の演説を前に、単一市場残留の道が閉ざされるとの懸念からポンドは下落していました。しかし、演説の中でEU離脱交渉の最終合意に議会の承認を求めるとして、それほど強硬な姿勢を示さなかったことや、トランプ米次期大統領が米ドルが強すぎると発言したことなどから、ポンドは買い戻されました。一方、トランプ発言を受けて円は米ドルに対して上昇し、2016年12月5日以来の1米ドル=112円台をつけました。

## ポイント② ポンド安で景気は堅調

EU離脱を決めた昨年6月の英国国民投票後、先行き不透明感から英国の景気が悪化すると懸念もありましたが、ポンドの大幅下落による輸出競争力の回復などにより景況感は改善しています。一方、ポンド安による輸入物価の上昇もあってインフレ率は上昇傾向です。中央銀行であるイングランド銀行の政策金利は昨年8月に引き下げられた後、横ばいで推移しており、さらなる金融緩和の公算は低下しているようです。

## ポイント③ 英国の魅力を持て維持できるのか

こうした点から見れば、今後これ以上ポンドが下落する必要はなさそうです。しかし、英国とEUの離脱交渉は難航が予想され、自由貿易協定の締結も容易ではありません。

これまで英国では、欧州の金融センターとしての魅力を維持して資本をひきつけることで、大幅な経常収支赤字のファイナンスが可能でした。しかし、英国から欧州単一市場へのアクセスが困難になるとの懸念が高まれば、投資対象としての英国の魅力が低下し、より大幅なポンド安にならなければ、経常収支赤字と資本流入のバランスがとれないことになるかもしれません。

重要  
イベント

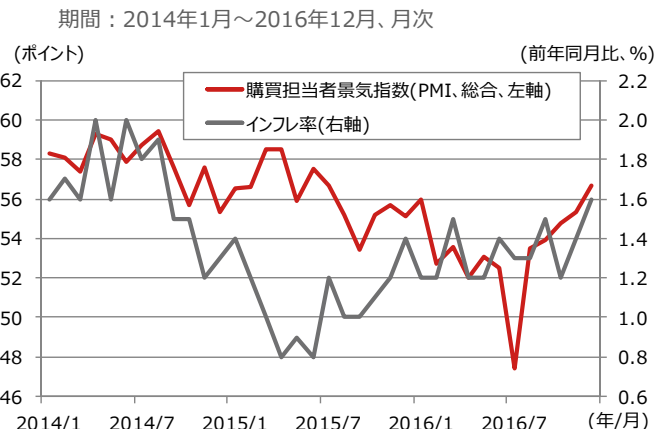
1月20日 トランプ大統領就任  
2月1日 米金融政策発表  
2月2日 英金融政策発表

図1：ポンドと円の対米ドル為替レート



(出所)Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：英国の景況感、インフレ率

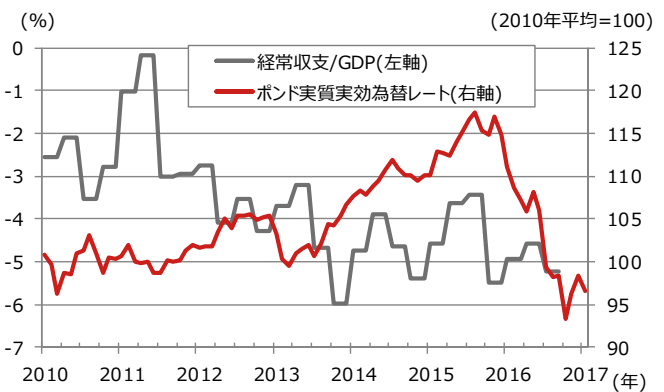


(注)インフレ率はエネルギー、食品、アルコール飲料、たばこを除く消費者物価

(出所)Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図3：英国の経常収支とポンド実質実効為替レート

期間：経常収支 2010年1-3月期～2016年7-9月期、四半期  
為替レート 2010年1月～2017年1月、月次



(注) 2017年1月の為替レートは、1～17日の平均

(出所)Bloombergより野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しない保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目録見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。